

参加状況

参加人数 104名

参加者の居住地域



参加者の声

- ・単純に「子ども」という共通のテーマだけで、私たち自身の成長を感じられました。
- ・若い人たちの活躍する姿が嬉しいです。もっと外に出ないと、と刺激を受けました。
- ・同じような活動をしている団体の成果や課題を知り、とても参考になりました。
- ・他所のやり方（内容・時間・考え方等）を参考にしたいと思います。
- ・他市の様子がわからず孤独に感じていましたが、いろいろな団体があって安心しました。
- ・県内でいろいろな活動があることを知り、自分たちの活動を振り返ることができました。
- ・社会教育と学校教育とのつながりの可能性について、改めて学べました。
- ・枠にはまっていた自分に気づかされました。特に最後のクロージングでいろいろな方に出会うことができました。
- ・社会にとって必要な事業を、様々な担い手が実践していることが、新鮮な学びでした。
- ・最後の学びを共有する時間も、貴重な時間となりました。
- ・今後の活動に、自信と責任を感じました。

成果と課題

- ・県内の様々な地域からの参加者があり、活動や情報の交流が活発に行われた。
- ・それぞれの地域で地道に活動する方々にスポットを当てることで、他の地域へ広げたり、自分たちの活動を見つめ直したりするよい機会となった。
- ・交流会終了後、早速他団体の活動を視察した方や、自身の活動を生かすために連携を模索する方の事例を聞くことができた。
- ・県内の優れた取組を継続的に発掘するための仕組みを確立する必要がある。
- ・講義や事例発表などの各プログラムにおいて、内容や時間配分を精選し、学びの充実を図る。

今後の展望

- ・本事業の周知を広げ、様々な教育支援の担い手が集う場としての定着を図る。
- ・多様な機関との連携を深め、優れた取組に焦点を当てるとともに、県民に広く発信する。

問合せ先

さわやかちば県民プラザ事業振興課 TEL 04(7140)8611 FAX 04-7140-8601
〒277-0882 柏市柏の葉 4-3-1 URL <https://skplaza.pref.chiba.lg.jp/>
実施報告の詳細は右記から <https://skplaza.pref.chiba.lg.jp/jo369vjob-840/>



平成30年度 教育支援NPO・ ボランティア等実践研究交流会

実施報告

子どもたちに夢を！未来を！
～おとなの繋がりで、化学反応を起こそう～

学び

講演や事例検討を通じて、自身の活動を振り返ったり、今後の活動のヒントを得たりし、活動の深まりや広がりを図った。

交流

参加者同士のネットワーク構築、団体間のマッチングのきっかけづくりを促進し、互いに支えあい、高めあう関係の構築を図った。

対象 教育支援の活動に関わっている方や興味のある方
NPO・ボランティア団体関係者、行政・学校関係者 等
日時 平成31年3月2日（土）

- 10:00 オープニング
- 10:15 全体会 **機構の取組** 「調査結果からみた体験活動の意義と機構の取組」
基調講演 「子どもを育む「縁」を結ぶ
～未来をひらく大人たちへの応援歌～」
- 13:00 分科会 **分科会A「体験を豊かにする活動」**
千葉YMCA（県内）
子ども劇場千葉県センター（県内）
鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会（鎌ヶ谷市）
分科会B「連携の豊かな活動」
ふくだ子どもの学び支援本部（野田市）
こどもがつくるまち@うらやす実行委員会（浦安市）
松戸青少年会館（松戸市）
分科会C「青少年の自立的な活動」
チームよつてら（四街道市）
N.O.C（袖ヶ浦市）
千葉県体験活動ボランティア活動支援センター（柏市）

- 15:50 クロージング
17:00 情報交換会

全体会

機構の取組 「調査結果からみた体験活動の意義と機構の取組」

国立青少年教育振興機構 広報官 兼 調査・広報課長 水澤 豊子 氏

「子どもゆめ基金」「体験の風をおこそう」「国立青少年教育施設」などの、国立青少年教育振興機構の取組について、豊富な資料をもとに紹介してくださいました。

また、子どもの頃の豊かな体験は、その後の人生の基盤になるという、体験活動がもたらす効能について、綿密な調査、分析結果からお話くださいました。体験が自己肯定感や道徳観を高める効果もあること、体験が心をはぐくむ仕組みについても知ることができました。



水澤 豊子 氏

基調講演 「子どもを育む「縁」を結ぶ ～未来をひらく大人たちへの応援歌～」

昭和女子大学 グローバルビジネス学部特任教授

コミュニティサービスラーニングセンター長 興梠 寛 氏

<提案1> 「子どもの社会力が危ない」小さな成功体験が行動的市民を育てていく
人や社会の役に立ち、感謝されるなどの小さな成功体験の積み重ねの中で、「自己効力感」は育まれていく、というアルバート・バンドウラの言葉を引用しながら、他者と社会の喪失の中に生きる子どもたちと、その打開策についてお話くださいました。

<提案2> 「もっと多彩な体験のチャンスをつくらう」水に入らなければ泳ぎを憶えることはできないアレック・ディクソンの言葉を引用しながら、体験の重要性についてお話くださいました。また、人が社会的人間として自己成長していくために欠かせない条件は、様々な他者との相互行為であり、それにより、子どもは社会的自我を形成し、社会的な人間として自己形成していく。まさに、そのための市民教育が重要であり、それを支える活動が重要である、というエールをいただくことができました。



興梠 寛 氏

「連携の豊かな活動」分科会

～無理なく持続可能な連携の輪をひろげるために～ ふくだ子どもの学び支援本部の「いい加減」な取組とは？

ふくだ子どもの学び支援本部 地域教育コーディネーター 川崎 貴志 氏

学校支援を広げるための学校との関係づくりに始まり、キャリア教育や授業支援などの具体的な支援の実際、支援を継続するための引き継ぎについて、具体的にお話くださいました。無理のないところからスタートし、支援内容や協力体制を広げていく内容でした。参加者からは、コーディネーターの活動や報酬についての、より具体的な運営体制についての質問が出されました。



自ら考えて動ける子どもを育む活動 ～地域ぐるみで大きなイベントに！

こどもがつくるまち@うらやす実行委員会 実行委員長 近藤 祐介 氏

子どもに自ら考え、課題を解決する力、挑戦する楽しさ、協力の大切さを身に付けさせることをねらいとし、警察、放送、お店などの社会の仕組みを学んだり、選挙で市長を決めたりと擬似社会体験を重ねた子どもたちが中心となって取り組む活動を紹介してくださいました。実際に運営する子どもたちの、生の声も聞くことができました。



子どもたちがつくる青少年会館居場所事業 子どもと遊びたい！でも遊べない！みんなの力で楽しい居場所

松戸青少年会館 社会教育主事 松本 優子 氏

子どもたちの居場所づくりを、青少年会館と複数のNPOが連携して行っている事例をお話くださいました。それぞれの強みを持ち寄ることで、事業の広がりや広報や情報交換の活性化など、様々な効果がありました。参加者からは、様々な主体が関わる事業における、共通理解や研修体制について質問が出されました。



「体験を豊かにする活動」分科会

野外活動で伸ばす子どもたちのチカラ

千葉YMCA 千葉市少年自然の家ディレクター 鶴岡 義久 氏

日々、自然の家で野外活動を指導されている経験をもとに、失敗を通して学ぶ、結果でなく過程を大切に、子どもたちが創意工夫できるよう配慮する等の、自然体験活動における留意点をお話くださいました。参加者からは、子ども会活動に向けたアドバイスや、効果的な親子プログラムについての質問が出されました。



文化芸術で豊かに育つ地域社会を

～芸術家派遣や病院・施設の子どもの笑顔の贈り物を届けるコーディネーターとして～

子ども劇場千葉県センター 事務局長 笠原 直子 氏

文化芸術による子どもの育成事業、病院や福祉施設の子どもの笑顔になる贈り物事業など、すべての子どもを視野に入れて、子どもの成長に有効な手法として、文化芸術体験を保障する活動を紹介くださいました。参加者からは、コーディネーターとしての留意点や、ボランティア運営など、活動の実際についての質問が出されました。



あそびから学ぶ！次世代リーダー養成講座「元気っこゼミナール」 中高生スタッフが中心になり運営する、小学生向けプログラム

鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会 副会長 高瀬 大和 氏

地元を舞台とし、自分で考える力、仲間と協力して目的を達成する力の獲得を目指した活動を、ジュニアリーダーが中心となって行っている。活動の紹介に加え、課題と今後の展望についてもお話くださいました。参加者からは、ジュニアリーダーの育成、運営上の苦労などについての質問が出されました。



「青少年の自立的な活動」分科会

学びでつながる寺子屋コミュニティ

チームよつたら 倉田 侑也 氏、林 果帆 氏、山崎 勇輝 氏、森田 紗妃 氏

市内でバラバラに活動していたボランティアグループをまとめ、体験学習を地域の子どもたちに提供する活動についてお話くださいました。PDCAサイクルを大切にしながら、学生が中心となって活動しています。参加者からは、企画立案の留意点や情報共有の工夫について詳しく知るため、企画を練り上げる過程について質問が出されました。



「ねこまる」一多世代交流、支え合い、未来をつなぐ”根形愛”一

～地元への恩返しの思いと将来への希望で地域を照らす若者たち～

N.O.C 代表 戸嶋 尚輝 氏、副代表 高橋 大和 氏、小林 悠己 氏、根形公民館 木村 卓郎 氏

公民館での成人式実行委員会をきっかけにスタートしてはじまった「ねこまる」の取組。近隣の高校や博物館、地域の団体と連携し、子どもたちに様々な体験を提供する、世代間交流の取組について、また、この活動をサポートする公民館の関わり方についてお話くださいました。参加者からは、組織の結束力を強める工夫について質問が出されました。



伝われ！子どもの願い！！

～15年間の子どものチャレンジプロジェクトを通して～

千葉県体験活動ボランティア活動支援センター ボランティアコーディネーター 村田 静枝 氏、小菅 嘉子 氏、上野 雅久 氏

「やりたいことをやってみよう」のテーマのもと、子どもたちが自分たちで相談しながら活動内容を決めていく、自主活動についてお話くださいました。主な活動や、子どもたちを見守るサポーターの役割と心得についても紹介されました。サポーターや参加メンバーからは、この場所がかけがえのない居場所だと伝わる生の声も聞くことができました。

